

平成30年度ごみゼロやまがた推進県民会議県民部会議事録

《日時》

平成31年 2月28日（木）13時25分～15時30分

《場所》

山形県庁 701会議室

《出席委員》（※部会長以下委員名簿順）

岡村廣委員（部会長）、有路智子委員、石塚久子委員、伊藤智英委員、岡崎恵子委員
河合麻衣委員、西田忠一委員、細谷由紀委員、横尾知子委員

《県民部会》

1 開会

2 あいさつ

岡村委員（部会長）よりあいさつ

3 議事（座長：岡村委員（部会長））

(1) 報告

- ① 第2次山形県循環型社会形成推進計画（ごみゼロやまがた推進プラン）
平成30年度取組状況について
- ② 第2次山形県循環型社会形成推進計画（ごみゼロやまがた推進プラン）
平成31年度事業展開について

【事務局】（資料1～3により説明）

<質疑・応答>

事務局からの報告に対し、特に質疑、意見無く了承。

(2) 協議

平成31年度ごみゼロやまがた県民運動 県民部会展開方針について

展開方針の協議に先立ち、各委員の所属団体における3R推進に向けた活動状況等について報告（資料4）

【岡村委員（部会長）】

県内各校におけるエコ活動の推進として、1 資源回収等リサイクル運動の推進、
2 保護者・児童への3Rの啓発活動、3 給食の食べきり、残飯を少なくする運動、
4 宴会等における3010運動の推奨に取り組んでいる。

なお、それぞれ各学校ごとの取組みについては、毎年6月に開催される県連合小学校長会の総会・研修会において情報交換を行っているほか、各地区毎の校長会でも月1回程度の会合があり、その都度、今回のような会議の状況や、県連合小学校長会での会議の状況などの情報交換を行い、今挙げた4つ以外にもそれぞれの学校の実情に合わせた3Rの取組みを行っている。31年度も30年度に倣って同様の取組みを継続していく。

【有路委員】

県内各校における取組みとして、1印刷物のリサイクル、2コピー枚数の制限、3会議資料のペーパーレス化の3つについては、大人側として、学校での印刷物をできるだけ少なくする、リサイクルする取組として推進している。

そして、4牛乳パック、エコキャップなど資源回収等リサイクル活動、5給食の残飯、残菜を減らす運動については、生徒側の取組みとして実施している。

給食の残飯等を減らす活動については、給食委員を中心に各クラスの食べ残しの状況をチェックして、どこのクラスが食べ残しが少なくて良かったです、といった校内放送を行うなどして3R意識の向上を図っている。

6古紙でのごみ箱づくりについては、給食で出た様々なごみなどを入れるごみ箱をつくるのに古紙を活用している。7の3010運動の推奨については、小学校長会と同様に、飲食を伴う会合、宴会等での食べ残しを減らす取組みを推進している。

【石塚委員】

県消費生活団体連絡協議会は県内4地区16団体からなる組織だが、それぞれの団体において様々な取組みを行っている。

1買い物袋持参運動については、ほぼどこでも普及してきているが、特に南陽市において一生懸命に取り組んでいる。2廃油での石鹸、キャンドル作りについては、特に東根市、米沢市において集中的に取り組んでいる。3生ごみの堆肥化、ボカシ作りは、長井市が特に一生懸命に取り組んでいる。4ペットボトルキャップ回収については、酒田市の旧松山町など庄内地域を中心に組み組んでおり、例えば、会合等でペットボトル飲料を配付した場合はその場でキャップを回収するなどまで行っている。5の古布の利用のストラップ作りについては、しじみ貝の食べ殻を古布でくるんで作るもので、同様に古布でマイ箸入れも作っている。

エコタワシについては、余った毛糸を使って作っている。6バザーの開催については、16団体すべての団体で取り組んでいる。7食品ロスの削減、食べきり運動については、県内各地区ごとの交流会があるたびに、会長あいさつの中で必ず呼びかけるようにしている。8牛乳パックでの正座いす作りについては、今年、米沢市で初めて取り組んだ。

【伊藤委員】

1フードドライブでは、今年度は1月末までで7,661kgと大変多くの寄付をいただくことができた。2助成をいただいてポスターやチラシを作成し広くフードドライブを呼び掛けた。また、3講演会等の依頼を受けることもあり、食品ロスに

ついて話をさせていただいている。4として、2017年12月からJ A女性組織協議会と共にフードドライブに取り組み、今年度は、6月と12月の2回で2,181kgの寄付をいただいた。5山形市、寒河江市、天童市のマックスバリュー東北にフードドライブボックスを設置させていただき、今年度からは山形市は4店舗に増やしていただき、夏場過ぎからは毎月100kgを超える寄付をいただくなど、フードバンクに関する認識が広がっている手ごたえを感じている。

31年度に向けては、まだまだフードバンク、フードドライブの知名度は不足していることから、おすそ分けということで、家庭で余っている食品はフードバンクを活用してごみにならないようにする働きかけをより一層取り組んでいく。

また、J Aの場合の様に、職場や団体にフードドライブを実施していただくにより多くの食品や生活用品が集まることから、来年度は、是非山形県庁でもフードドライブに取り組んでいただきたい。

また、必要とする方と必要ない方とのマッチングということで、例えば、介護用おむつなどは、市の助成を受けておむつを買い置きしたものの途中でお亡くなりになり余ってしまったおむつをごみとして排出している家庭もあれば、一方では、経済的に困窮し必要な量のおむつを買えずに、一度使用したおむつを洗って再利用している方もいるなど、片方では余って捨てるのに困っている、また一方では買えなくて困っているといった方とのマッチングを私たちが間に立って行い、有効活用することでごみを増やさない取組みを行っていきたい。

【岡崎委員】

山形県保育協議会は、県内の保育所、認定こども園、公立・民間・認可外問わず240カ所ぐらいが加盟している組織。各地区から選出された役員に対して、ごみの削減について周知を行う取組みを行った。

対象となる子供は0才から就学前と小さいことから、子供たちに対してのごみ削減の啓発は難しいが、ほとんどが自園調理ということもあり、給食を残さず食べるということを教えていきたい。また、若い保護者が大変多いので、毎日の生活の中で実施可能なごみ削減に繋がる小さなことを発信していきたい。

また、私たち職員については、まだまだ紙を使用する会議などが多いため、少しでも削減できるよう取り組んでいきたい。

【河合委員】

環境ネットやまがたは、山形県地球温暖化防止活動推進センターの仕事や、企業向けの環境マネジメントシステム「エコアクション21」の地域事務局や、県内200社ほどが加盟している環境保全協議会の事務局などを行っている。

環境ネットやまがたの取組みとして、1エコアクション21の活動の一環として、毎月紙ごみを計測し、古紙回収に出したりコピー枚数の削減の取組み。2 毎年の通常総会後の懇親会で、環境省のホームページからダウンロードしたポップを使用したり、乾杯前に声掛けをするなど広く周知を行い3010運動に取り組んでいる。3 地球温暖化防止のイベント関連として、山形市、上山市、天童市の協力を得て、廃油、廃ろうそくを使用したキャンドルづくり教室の実施、4 ボランティア活動になるが、

事務所近くの竜山川の河川清掃活動を最上川フォーラムの活動の一環として実施している。

最後に、環境ネットやまがたは設立して15年ぐらいになり、研修会や会議など多いが、思いきって、その際にペットボトル飲料を配付しない取組みを始めている。

事務所の給水器と60～70個ほどあるプラスチック製の茶碗を利用して、プラスチックごみを排出しない取組みを行っている。

【西田委員】

山形県保健環境活動団体連合会は、以前の衛生組織連合会から全国規模の組織名称の変更に伴い現在の名称となり活動を行っている。県内4地域ごとに協議会を組織していたが、現在、村山地域と庄内地域の協議会が廃止され、協議会として活動を行っているのは最上地域と置賜地域のみとなる。

各市町村ごとの活動としては、生ごみ処理機購入補助や、不法投棄防止活動、リユース食器利用推進などとなるが、全てを全市町村で行っているのではなく、各市町村毎に取組内容は異なる。

最上地域としては、廃タイヤの回収事業やごみステーション・リサイクルステーションの新設、修繕に8市町村全てで取り組んでいる。

31年度に向けても、ごみゼロやまがたの実現に向けた生活環境の保全や公衆衛生の活動として、浄化槽の普及推進や適正な維持管理、水環境の保全活動、不法投棄防止活動などに引き続き取り組んで行く。

【細谷委員】

みらい子育てネットは、地域のお母様方が集まったの会であり、ごみ削減などは取り組みやすい活動ということで主に啓蒙活動を中心に行っている。

総会時に、代表者の方々50名くらいの参加者に対しリーフレットを配付して生ごみの水切りや食品ロス削減の呼びかけを行った。また、この際に県の循環型社会推進課の紹介もあり、県環境科学センター職員等を講師に迎えてエコ調理とエコ工作の実習を行った。エコ調理は特別な調理法ということではなく、ちょっとした工夫で生ごみを出さないようにしたり減らしたり、またエコ工作では段ボールやトイレットペーパーの芯などを利用してのカーリングのストーンづくりを教えていただき親子で楽しむことができた。

なお、会報にも毎年“ごみゼロやまがたを目指して”のコーナーを設け広く周知広報を行っている。

【横尾委員】

自宅で自動車整備工場を営んでいることから、個人としての活動と併せ事業所としての活動にも取り組んでいる。個人としては、生ごみ処理機を利用して家庭菜園の肥料として活用している。また、婦人会役員研修会で、天童市生活環境美化衛生係指導員による「ゴミ減量とリサイクル」「食品ロス削減について」の研修会を受講した。その中で、使用済み小型家電のごみの出し方などについても教えていただきこれまで知らなかったことも学習することができた。

他にも、買い物時のエコバッグの持参や、食品トレイは店頭回収ボックスへ、

牛乳パック、ペットボトル、アルミ缶、雑紙などはリサイクルステーションに出すようにしている。

事業所としては、車の修理に際し、車検整備などは消耗品が多く新品を使用せざるを得ない場合が多いが、事故車両などは、できるだけリサイクル部品等をしていただけるよう推奨している。

また、保険業務の際もパソコン画面での確認が可能な方にはできるだけ紙を使わずパソコンを使用して説明を行っている。

ほかにも、自社の自動車を電気自動車に替え、CO₂排出量削減に努めている。31年度も同様の取組みを継続していきたい。

- ・ 欠席委員の活動状況について

【事務局】（資料4により説明）

- ・ 平成31年度ごみゼロやまがた県民運動 県民部会展開方針 原案について

【事務局】（資料5により説明、併せて食品ロス削減に向けた取組みの実施について資料6により説明）

【座長：岡村委員（部会長）】

事務局から提案のあった31年度県民運動展開方針及び関連しての食品ロス削減に向けた取組みについて、委員の皆様から御意見をお願いいたします。

【有路委員】

31年度の展開方針の3項目については大いに賛同する。小学5年の家庭科の授業でも、本日説明のあった3Rについて学習しており、自分の市町村でどのくらいごみを排出しているのかを学習し、その中から学校ごとの活動に展開されているもので、県民運動の展開方針ともタイアップして取り組んでいけるものと思っている。

また、フードバンクについても、食事のままならない御家庭もある中、昨年度、市の社会福祉協議会と連絡を取り合う中でフードバンク、フードドライブの活動を知り、援助が必要な方に有効活用をさせていただくことができ、大変良い活動だと思っている。今日のような会議に出席して思うこととして、県民運動の展開が効果を上げるためには、それぞれが身近な問題として、自分のこととして考えることが必要で、大きな組織からトップダウンでおろすだけでなく、小さな組織ごとに浸透させていかなければ広がりがないということになるのではないかと。

食品ロス削減シンポジウムといった話もあったが、もう少し小さい組織、場所の中で今日のような啓蒙的な話を聞く機会も必要ではないかと。

市町村によっても取組みが大きく異なり、東根市は学校数がそれほど多くないこともあり、さくらんぼ環境ISOの取組みとして頻繁に会合があり、その中で各学校ごとに紙、電気、水道などの使用量の比較データが出され、それを基に今月はこういった取組みを行おうなどの子供たちの活動につなげていたが、山形市は学校数が多いこ

ともあり、直近の話題、課題として意識化されない傾向がある。難しい問題ではあるが、大きくではなく、自分のこととして下から意識を上げていくことが必要なのではと思っている。

【事務局】

県の問題意識としても、まさしく県民の方一人一人が日常の問題として認識いただくことが一番重要なことであり、今日の会議に御出席の皆様は十分おわかりで実践していただいていることと思うが、それが県民一人一人まで浸透してっていないということが課題であると認識している。

来年度計画している食品ロス削減シンポジウムについては、現在、社会的も注目され、また実際に数値データ的にみても生ごみの削減は本県においても大きな課題であるため、県民の方にも受け入れていただきやすいものと考え企画したものだが、これを契機として、この先には、例えば宴会時の食べ残しゼロなど身近な取組みを一人一人が実践いただくことで、ものを大切にする意識、ごみを出さない意識を身につけていただき、ごみゼロにつなげていければと思い企画した事業である。

また、このシンポジウムの成果を、来場者だけでなく更に広げていくために、組織を通して内容を末端まで下していただく、そして、例えば、御賛同いただければ会社としての食品ロス削減に向けた取組みを社内的に宣言して実践いただくなどの取組みもお願いできればと考えている。また、可能であればそれらの取組みを情報の共有として県のHPで広く紹介するなどしながら次の年度に繋げ広げていきたい。

取組みを浸透させていくことは難しいことだと認識しているが、各団体の皆様方からは、組織力を生かして情報を伝達するルートとして協力願うとともに、併せて県としても新聞広告など広報媒体をも活用しながら浸透を図っていきたい。

【伊藤委員】

食品ロス削減シンポジウムということで期待していたが、主に出来てしまった料理の食べきりの取組みがメインで、自分たちが取り組んでいるフードバンク、フードドライブのような、まだ使える食材がごみにならないようにという取組みがシンポジウムの内容に反映していないように思われるが、このような取組みをシンポジウムに反映させることは難しいか。

【事務局】

シンポジウムの中身については、まだ具体的に決まっているわけではなく、食べきりの前段として、ごみをださない（リデュース）という3Rの1歩目の取組みが一番重要であることは十分認識している。このため、フードバンクの取組み、ごみにしない、有効活用するといった取組みもシンポジウムの中で広く周知していく事例として関連付けていければと思っている。

【西田委員】

有路委員からも話のあった、上からではなく住民一人一人の身近な取組の例として御紹介させていただくが、金山町の衛生組合の中では、積極的に、燃やせるごみを減らそうという話を会議等があるたびに周知徹底している。

雑紙をできるだけ燃やせるごみに出さないで、少しでも溜めてリサイクルに出そうという取組み、例え1人10gずつでも減らしていけば、結果的に焼却炉の延命措置にもなることでもあり、目標を立てて取り組んでいる。これは、金山町だけでなく最上地域8市町村それぞれ競い合うように一生懸命に取り組んでいる。

【座長：岡村委員（部会長）】

他に御意見がなければ、平成31年度ごみゼロやまがた県民運動県民部会展開方針として、食品ロス削減運動、プラスチックごみ削減運動、ごみの分別徹底運動の3つを展開方針案として総会に提出することはいかがか。

【各委員】

異議なし

(3) その他

【事務局】

・平成31年度「ごみゼロやまがた県民運動」の活動内容について資料7により説明

【石塚委員】

ごみゼロやまがた県民運動キャンペーンについて、ごみゼロの日、そして消費の日でもある5月30日に、消費生活団体連絡協議会としても県と連携のうえ実施している。

これまで、県内4地域の大型商業施設イオンを会場に実施しているが、会員からの意見として、イオンではなく別な場所で実施したいという声がある。イオン以外の場所でキャンペーンを実施することは可能か。

【事務局】

御意見を承り、より効果的な啓発活動ができるよう検討してまいりたい。

4 その他

【事務局】

・今後のスケジュールについて説明。(5月下旬頃に総会を開催予定)

5 閉会